

第51回 公開講座

生活支援工学への期待 ～ 実践的な工学的解法のために ～

日時 2007年10月26日 (金) 13:00～14:30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 倉田 純一 (人権問題研究室研究員・システム理工学部准教授)

理工学系の分野での障害者・高齢者に対する取り組みでは、介護・福祉機器の研究開発があげられる。たとえば、日本機械学会にある20部門のうち、多くの部門でそれぞれの観点から介護・福祉機器に取り組む研究者が多数いるが、分野横断での活動は少なく、それぞれの機器の評価についても分野ごとの機械的性能評価が主流となっている。そこには、「高性能の機械＝役立つ機械」、あるいは、「ハイテクな機械＝役立つ機械」という考えがあり、さらに、「高性能」や「ハイテク」の指す内容もそれぞれの分野に依存していて、利用者の使い勝手や要求などに対応する評価項目はほとんど無いように思える。また、そのような評価があっても、学生などの健常者による模擬体験が主体となっており、その多くは一時的な使用による評価としか言えない。

このように、機械分野だけをみても研究者主体の開発であり、理工学分野全体から見れば、多くの研究者が全くバラバラに活動していて、利用者不在になっているのではないかという危惧に駆られる。それぞれの分野で機械的性能の向上を主眼とせざるを得ない研究活動の背景には、重度の障害を有する利用者による評価は単なるケーススタディーであって、大量に供給すべき製品開発には直結しないとの考えがあり、すなわち、個々に障害の程度が異なる実際の利用者による評価では学際的・統計的なデータが収集できず、普遍的な結果を求める理工学的な立場としては価値が高くないという考えがあると感じる。もちろん、個々の利用者の機能は異なっているので、最適調整条件は異なるであろうが、ある程度共通した設計方針は得られ、最適条件への道のりを短縮することはできると考える。

そこで、機械分野、材料分野、建築分野の3分野の研究者による、「生活支援工学研究ユニット」を立ち上げ、「高度福祉社会のQOL改善に寄与する生活支援工学構築のための実践的研究」を文部科学省学術研究高度化推進事業 学術フロンティア推進事業として始めた。各分野に属している研究者は、これまでも障害者・高齢者など利用者と共に研究活動をしてきており、利用者による継続的な使用による評価が重要であることを痛感する経験を持っている。また、住宅改修や生活支援機器の改良・開発などにも取り組んでおり、実践的な活動を進めている。研究活動の様子や実証実験のために建築した「関西大学月が丘住宅」などについて述べ、理工学分野での生活支援への取り組みについて説明する。

* * *

●聴講無料 多数のご来場を歓迎します。

手話通訳が必要な場合は、10月18日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第52回 11月16日 (金) 13:00～14:30 「ベールの下素顔」 金谷千恵子(委嘱研究員・非常勤講師)
会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680

吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>